

令和2年度から使用する広島市立小学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔音楽〕 種目〔音楽〕

令和2年度から使用する小学校用教科用図書の採択について

教科 [音楽] 種目 [音楽]

1 本市の実態や児童の状況

- 本市では、「文化の祭典」や「こころの劇場」など、日頃の学習の成果を発表したり本物の舞台芸術に触れたりするなど、児童の音楽経験を豊かにする場を設定し、各学校に積極的な参加を呼び掛けている。また、各学校では、音楽朝会や音楽鑑賞、音楽発表会などを設定し、児童が音楽に親しむ機会を大切にしている。
- 本市の児童は、日常経験の乏しさから、「こいのぼり」「おぼろ月夜」などの共通教材に表現されている情景を思い浮かべることができにくい。また、感じたことを言葉に表すなど、豊かに表現することができにくい課題が見られる。児童によって音楽経験の差が大きく、日常生活において、伝統的な音楽に親しむ環境に置かれていない児童も多くいる。また、音楽活動の基礎的・基本的な知識及び技能や主体的な取り組み方にも個人差が見られる。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜基礎・基本の定着＞	① 題材の目標の示し方 ② 共通事項の定着を図るための工夫 ③ 技能を定着させるための工夫 ④ 我が国の音楽・共通教材に関する内容の扱い
＜主体的に学習に取り組む工夫＞	⑤ 音楽づくりの学習の扱い ⑥ 教材の扱い（児童の興味・関心及び発達段階への考慮、対話的な学習との関連）
＜内容の構成・配列・分量＞	⑦ 各領域（表現・鑑賞）の構成、分量
＜内容の表現・表記＞	⑧ 文字表現・表記と学習内容の適切な関連付け ⑨ 配色や文字の大きさ等の工夫
＜言語活動の充実＞	⑩ 鑑賞における言語活動充実の工夫

3 各教科書の特徴

1 基礎・基本の定着

視点① 題材の目標の示し方

- 各教材の目標、題材名を見開きの左上、題材のねらいを題材冒頭のページに示している。
- 目次に、題材名とともに題材ごとの目標を示している。
- 各題材に、音楽を形づくっている要素に着目する目標を示している。

視点② 共通事項の定着を図るための工夫

- 各教材の右上に、音楽を形づくっている要素を、「音楽のもと」として示している。
- 各題材の中に児童が自ら聴き取ったり感じ取ったりした音楽を形づくっている要素を書き込む「メモ欄」を設けている。
- 新出の音符や記号を右端に帯を設けて示している。
- 各学年の巻末に『音楽のもと』まとめとして、音楽を形づくっている要素を示すとともに、2年から6年では、音符や記号などを一覧にして示している。

視点③ 技能を定着させるための工夫

【鍵盤ハーモニカ】

(1年)

- ・ 鍵盤ハーモニカの実物大の写真を8ページにわたって示している。
- ・ 鍵盤ハーモニカの導入では、立奏・座奏の写真を提示している。
- ・ 黒鍵を「ふたつのおやま」「みつつのおやま」とし、図と文字で示している。

(2年)

- ・ 「指かえ」「指くぐり」「指またぎ」を扱っている。

(3年)

- ・ 「指くぐり」と「指またぎ」を使う曲を1曲扱い、写真で示している。

【リコーダー】

(3年)

- ・ リコーダーの導入では、立奏の構え方、穴のふさぎ方を写真で示している。
- ・ タンギングのやり方を、言葉で説明し、息の出し方を「トゥ」と片仮名で示している。
- ・ シの音を習得する場面では、シの音だけの曲を示し、シの音やタンギングを習得する活動を設定している。
- ・ シ→ラ→ソの順に扱い、時期をずらして、高いドと高いレを扱っている。

(3年から6年)

- ・ 3年以上で、リコーダーの運指表を巻末に折り込みで掲載している。

【その他の楽器】

- ・ 1年では、打楽器の奏法について、巻末の「がっきずかん」に写真で示している。
- ・ 4年では、箏の演奏について扱い、座奏を写真で示している。
- 2年以上の巻頭に技能習得のための「スキルアップコーナー」を設定している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 我が国の音楽・共通教材に関する内容の扱い

- 各学年にわらべ歌や日本の音楽に関する教材を設けている。
- 日本の楽器については、4年で箏、5年で篠笛を扱っている。
- 共通教材では、イラストや写真で歌詞の表す情景を示すとともに、教材によっては、折り込みで3ページにわたる写真を示している。

視点⑤ 音楽づくりの学習の扱い

- 「音のスケッチ」として、各学年で音楽づくりの活動を設定している。
- 教材によっては、書き込みができる枠を設けている。
- 「音のスケッチ」では、友達と音をつなげたり重ねたりするなどの活動や、互いの役割を生かしながら行う活動を設定するとともに、書き込む欄を設けている。

(6年)

- ・ 動機をもとに音楽をつくろう (フレーズ、反復、変化)
- ・ 循環コードをもとにアドリブであそぼう (和音の響き、旋律)
- ・ 役割を決めて音階をもとにした音楽をつくろう (音階、縦と横の関係)

視点⑥ 教材の扱い (児童の興味・関心及び発達段階への考慮、対話的な学習との関連)

- 4年から6年の巻頭に演奏者・表現者からのメッセージを掲載している。
- 各学年の<Short Time Learning>のコーナーでは、既習曲の英語歌詞や英語の歌を掲載し (外国語活動・外国語科との関連)、1年に「おおきななぶ」(国語科との関連)、2年に「みんなで九九」(算数科との関連)を掲載している。
- 各学年に、「まなびナビ」を設定し、学習のヒントを示している。さらに5・6年には、「学び合う音楽」のコーナーを設定し、学びのプロセスを示している。
- 各学年の巻末に、各学年同一の教材を2曲掲載している。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 各領域（表現・鑑賞）の構成、分量

- 各学年の分量と題材については、次のとおりである。

	分量			判	題材・教材					
	重さ (g)	縦 (mm)	横 (mm)		題材数	歌唱	器楽	音楽づくり	鑑賞	教材数
1年	約170	257	210	AB判	7	27	7	7	13	48
2年	約170				8	34	9	7	13	55
3年	約210	277		AB判+	8	29	18	8	9	49
4年	約200				8	27	10	5	12	49
5年	約210			天地20mm	7	27	12	4	10	43
6年	約200				7	27	10	4	7	43

※ 重さは、一の位を四捨五入

- 2年から合唱、5年から三部合唱を取り入れている。
- 巻末にそれぞれの学年に合った歌唱曲、器楽曲を掲載している。

4 内容の表現・表記

視点⑧ 文字表現・表記と学習内容の適切な関連付け

- 国歌は2ページで扱い、歌詞と楽譜を示している。さらに歌詞の大意、細石の写真を示している。
- 3・5年に透明シートのページを設け、音符や記号を確認したり、オーケストラの楽器の配置を確認したりできるようになっている。
- 器楽教材では、長く伸ばす音・短く切る音、強い音・弱い音を図や言葉で示している。

視点⑨ 配色や文字の大きさ等の工夫

- 各題材の目標を2色で表記するとともに、色を変えた部分を大きい文字で示している。
- 背景は、白を基調としている。

5 言語活動の充実

視点⑩ 鑑賞における言語活動充実の工夫

- 音楽を聴いて気付いたことや感じ取ったことを直接書き込むことのできる欄を2・3・4・5年に設けている。
- 各学年の巻末に、音楽を形づくっている要素を示す「『おんがくのもと』まとめ」と、2年から6年の巻末に、聴き取ったことや感じ取ったことを言葉で表す「音楽を表すいろいろな言葉」を掲載している。

1 基礎・基本の定着

視点① 題材の目標の示し方

- 各教材の目標、題材名を見開きの左上、題材のねらいを題材冒頭のページに示している。
- 目次に、題材のページと同じ色の枠を付し、題材の目標を示している。
- 各題材に、題材全体につながる言葉で目標を示している。
- 各学年、巻頭に1年間の学習を示している。

視点② 共通事項の定着を図るための工夫

- 各教材の右下に、音楽を形づくっている要素を示している。
- 新出の音符や記号は、「新しく覚えること」として枠で囲んで示し、書く練習をする欄を設けている。
- 各学年の巻末に「ふりかえりのページ」として、音楽を形づくっている要素、音符、記号を一覧にしてページ数や学習内容とともに示している。

視点③ 技能を定着させるための工夫

【鍵盤ハーモニカ】

(1年)

- ・ 鍵盤ハーモニカの実物大の写真を6ページにわたって示している。
- ・ 鍵盤ハーモニカの導入では、座奏・立奏の写真を提示している。また、指を軽く曲げる横からの角度の写真を提示している。
- ・ 黒鍵を「ふたつのおやま」「みつつのおやま」とし、文字で示している。

(2年)

- ・ 「指かえ」を扱っている。

(3年)

- ・ 「指くぐり」と「指またぎ」を使う曲を1曲扱い、写真で示している。

【リコーダー】

(3年)

- ・ リコーダーの導入では、立奏・座奏の構え方、穴のふさぎ方(指のはら)を写真で示している。
- ・ タンギングのやり方を、絵と言葉で説明し、息の出し方を「Tu」とローマ字で示している。
- ・ シの音やタンギングを習得する活動を設定している。
- ・ シ→ラ→ソ→高いド→高いレの順に扱っている。

(3年から6年)

- ・ 3年以上で、リコーダーの運指表を巻末に掲載している。

【その他の楽器】

- ・ 1年では、打楽器の奏法について、本文中に写真と絵で示している。
- ・ 4年では、箏の演奏について扱い、座奏、座り方、手の部分を写真で示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 我が国の音楽・共通教材に関する内容の扱い

- 各学年にわらべ歌や日本の音楽に関する教材とともに、「歌い継ごう日本の歌」のコーナーを1年から5年に設定している。
- 各学年の裏表紙に日本の郷土芸能を示している。
- 日本の楽器については、4年で箏を扱っている。
- 共通教材では、イラストや写真で歌詞の表す情景を示している。

視点⑤ 音楽づくりの学習の扱い

- 「音楽づくり」として、各学年で音楽づくりの活動を設定している。
- 各学年の教材に、書き込みができる枠を設けている。
- 「音楽づくり」では、友達と音をつなげたり重ねたりするなどの活動や、互いの役割を生かしながら行う活動を設定するとともに、各学年の教材に書き込む欄を設けている。

(6年)

- ・ ボイスアンサンブル(音色、リズム、音の重なり、縦と横の関係)
- ・ 和音の音で旋律づくり(リズム、旋律、和音の響き)

視点⑥ 教材の扱い(児童の興味・関心及び発達段階への考慮、対話的な学習との関連)

- 5・6年の巻頭に、表現者からのメッセージを掲載している。
- 3・4年の器楽教材や5年の鑑賞教材のページに、演奏者からのメッセージを掲載している。
- 3年から6年では、英語の歌を掲載し(外国語活動・外国語科との関連)、4年に「ごんぎつね」(国語科との関連)を掲載している。
- 各学年、キャラクターの吹き出しに、学習のヒントを示している。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 各領域（表現・鑑賞）の構成、分量

- 各学年の分量と題材については、次のとおりである。

	分量			判	題材・教材					
	重さ (g)	縦 (mm)	横 (mm)		題材数	歌唱	器楽	音楽づくり	鑑賞	教材数
1年	約180	262	210	A B判+ 天地5mm	10	36	15	7	9	51
2年	約180				10	32	13	5	14	49
3年	約180				9	23	18	4	10	47
4年	約180				9	22	12	4	13	48
5年	約180				8	20	9	2	11	41
6年	約180				8	22	8	2	7	37

※ 重さは、一の位を四捨五入

- 2年から合唱、5年から三部合唱を取り入れている。
- 巻末にそれぞれの学年に合った歌唱曲、器楽曲を掲載している。

4 内容の表現・表記

視点⑧ 文字表現・表記と学習内容の適切な関連付け

- 国歌は2ページで扱い、歌詞と楽譜を示している。さらに歌詞の大意、細石とともにオリンピックなどの写真やコラムを掲載している。
- 器楽教材では、長く伸ばす音・短く切る音、強い音・弱い音を色や大きさの違う立体的な図や言葉で示している。
- 1年から4年では、色分けした音階を縦書きに表記している。

視点⑨ 配色や文字の大きさ等の工夫

- 各題材の目標を1色で表記している。
- 背景は、白を基調としている。

5 言語活動の充実

視点⑩ 鑑賞における言語活動充実の工夫

- 音楽を聴いて気付いたことや感じ取ったことを直接書き込むことのできる欄を3・4・6年に設けている。
- 各学年の巻末に、音楽を形づくっている要素と学習した内容を振り返る「ふりかえりのページ」を掲載している。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市児童の課題である「日常経験の乏しさから、『こいのぼり』『おぼろ月夜』などの共通教材に表現されている情景を思い浮かべることができにくい。また、感じたことを言葉に表すなど、豊かに表現することができにくい」「音楽活動の基礎的・基本的な知識及び技能や主体的な取り組み方にも個人差が見られる」ことに対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和2年度使用小学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 教育出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ リコーダーの導入場面では、シの音だけで演奏できる曲を示し、シの音とともにタンギングを習得する活動を設定している。
- ・ 共通教材では、イラストや写真で歌詞の表す情景を示すとともに、教材によっては、折り込みで3ページにわたる写真を示し、児童が情景を思い浮かべやすくしている。
- ・ 各学年の巻末に、音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、反復、呼びかけとこたえ等）を示す「『おんがくのもと』まとめ」と、2年から6年の巻末に、聴き取ったことや感じ取ったことを言葉で表す「音楽を表すいろいろな言葉」を掲載していることは、感じたことを言葉に表すなど、豊かに表現することに効果的である。

意見2 教育芸術社の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ リコーダーの導入場面では、シの音やタンギングを習得する活動を設定している。
- ・ 共通教材では、イラストや写真で歌詞の表す情景を示している。
- ・ 各学年の巻末に、音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、反復、呼びかけとこたえ等）と学習した内容を振り返る「ふりかえりのページ」を掲載している。

令和2年度から使用する広島市立小学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔 図画工作 〕 種目〔 図画工作 〕

令和2年度から使用する小学校用教科用図書の採択について

教科 [図画工作] 種目 [図画工作]

1 本市の実態や児童の状況

- 本市には、美術館を有する旧市街地と、新たに開発された住宅地、商業地、山や海や川などを主体とした自然豊かな地域など、様々な特色をもつ地域があり、児童を取り巻く学習環境にも大きな違いがある。
- 児童の実態として、全体的に新たな活動への興味・関心が旺盛で、よさや美しさを素直に感じ取り、表現したり鑑賞したりしていることがうかがえる。一方で、表したいことを見付けることや発想することが苦手な児童、粘り強く取り組めない児童、造形活動に苦手意識をもっている児童もいる。その理由として、多様な造形活動の不足が考えられる。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜基礎・基本の定着＞	① 題材の目標の示し方 ② 材料・用具の取扱いと表現方法の紹介 ③ 伝統と文化に関する内容の扱い
＜主体的に学習に取り組む工夫＞	④ 興味・関心を高めるための工夫 ⑤ 活動の流れやポイントの示し方
＜内容の構成・配列・分量＞	⑥ 題材の配列や分量
＜内容の表現・表記＞	⑦ 活動や作品の解説の仕方 ⑧ 配色や文字の大きさ等の工夫
＜言語活動の充実＞	⑨ 表現や鑑賞における言語活動の工夫

3 各教科書の特徴

1 基礎・基本の定着

視点① 題材の目標の示し方

- 各題材で、新学習指導要領に示された育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づいた学習のめあてを示している。各題材で重点を置くめあてには下線を引き、色を変えて示している。
- 全ての題材に「ふりかえり」を設け、学習のめあての中で重点を置くめあてに対応した振り返りを示している。
- 巻頭では、各題材における3つの学習のめあてについて、それぞれ「形や色、方法や材料を知って、くふうする力」「試したり、見つけたりして、考えたり、思いついたりする力」「心を開いてたのしく活動し、友だちとかかわり、協力し合う力」と説明している。

視点② 材料・用具の取扱いと表現方法の紹介

- 各題材で、材料や用具の扱い方や表現方法の工夫について図や写真を使って示している。また、吹き出しのセリフや短い文で表現方法を紹介している。
- 用具の取扱いに関して、特に注意が必要な場合は「安全」において、安全な扱い方を示している。
- 各題材の上部に、主に用いる材料と用具をマークで示している。下部には、必要に応じて詳しい使い方が参照できるよう、参照ページを示している。
- 一部の題材において、材料や用具の片付け方を写真と文で示している。
- 巻末「学びの資料」において、材料や用具の扱い方と、材料や用具を用いた多様な表し方を示している。また「ためしてみよう」において、掲載している材料や用具を用いて製作した作品や、そのつくり方等を紹介している。
- 全学年の巻末「集めておこう！材料はたからもの」において様々な種類の材料を紹介し、児童に集めるよう促している。
- 5・6年下の巻末では、コンピュータの活用法を掲載するとともに、著作権や情報モラルに関わる配慮事項を示している。
- 巻末には、かたがみ版画（1・2年下）、紙版画（3・4年上）、木版画（3・4年下）、ほり進み木版画（5・6年上）、スチレンボード版画（5・6年下）のつくり方を掲載している。

視点③ 伝統と文化に関する内容の扱い

- 日本の伝統的な文化に関わる作品を低学年から掲載している。
- 国内外の芸術家の作品を掲載している。
- 海外の児童の作品を各巻に掲載している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を高めるための工夫

- 巻頭に、児童が活動している写真や美術作品等とともに、表現することの意味や価値等について文章で示している。
- 全学年、巻頭の「図画工作を学ぶみなさんへ」において図画工作科を学ぶ上で大切にしたいことを示している。
- 全学年、目次と年間の活動を4ページにわたって紹介している。
- 全学年「ひらめきコーナー」において、紙や紙でできた身近なものでつくりることができる工作の仕組みを紹介している。
- 1・2年上には幼稚園児との交流、5・6年下には中学生との交流をそれぞれ紹介している。
- 5・6年に「つながる造形」を掲載し、オリンピック・パラリンピック、デジタル技術、平和や未来につながる活動や作品を掲載している。
- 裏表紙に、オリジナルのマークをかくことができる枠を設けている。
- 裏表紙の「保護者の皆様へ」には、図画工作科を通して児童に付けたい力を、全学年同じ内容で示している。
- 各題材に「あわせて学ぼう」を設け、題材に関連する他の教科を示している。

視点⑤ 活動の流れやポイントの示し方

- 題材名の近くに、児童が働かせる思考や、行う活動について短い文で示している。また、学習を深めるポイントをキャラクターの吹き出しにより記載している。
- 題材によって「安全」や「かたづけ」においてポイントを示している。
- いろいろな表現につながるように、活動例が写真と言葉で複数紹介してある。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 題材の配列や分量

○ 各巻のページ数、重量及び題材数は以下のとおりである。

〈1・2年上〉	57ページ	約220g	造形遊び：4	絵：10	立体：3	工作：6	鑑賞：1
〈1・2年下〉	57ページ	約220g	造形遊び：4	絵：11	立体：2	工作：7	鑑賞：1
〈3・4年上〉	57ページ	約220g	造形遊び：2	絵：7	立体：2	工作：8	鑑賞：1
〈3・4年下〉	57ページ	約220g	造形遊び：2	絵：7	立体：2	工作：8	鑑賞：1
〈5・6年上〉	57ページ	約220g	造形遊び：2	絵：7	立体：2	工作：6	鑑賞：1
〈5・6年下〉	57ページ	約220g	造形遊び：2	絵：7	立体：2	工作：6	鑑賞：1

※ 重さは一の位を四捨五入している。

※ 巻頭、巻中、巻末に設定されている「つながる造形」(5・6年上下)「ひらめきコーナー」「みんなのギャラリー」「造形の引き出し」はページ数に含んでいる。

○ ほとんどの題材を見開き2ページで掲載しているが、1ページ扱いのものもある。

○ 目次において、題材名の横に、各題材で重点を置くめあてをマークで示している。

4 内容の表現・表記

視点⑦ 活動や作品の解説の仕方

○ 「」の中に児童の製作の意図や工夫を示している。

○ 児童が活動している様子の写真に吹き出しを付し、児童の気付きや思い等を文で示している。

○ 多様な表し方や展示方法例を写真で示している。

○ 一部の題材において、安全に活動するための注意事項と片付けの仕方を、写真と言葉で示している。

○ 児童の様々な活動の様子や、活動しているときの表情を写真で掲載している。

視点⑧ 配色や文字の大きさなどの工夫

○ カラーユニバーサルデザインに配慮している。

○ 冊子の大きさは、A4サイズである。

○ 学習のめあてを、全題材において統一した枠内に提示している。

○ 吹き出しの色は、ほぼ白色である。

5 言語活動の充実

視点⑨ 表現や鑑賞における言語活動の工夫

○ 鑑賞の題材では、キャラクターや児童の吹き出し等によって、鑑賞の視点を示している。児童が活動している様子の写真や吹き出し等には、形や色などの特徴を踏まえて言語活動を行っている様子を示している。

○ 児童が友人と話し合いながら活動する写真を掲載している。

○ アイデアスケッチや取扱い説明書など、言語活動の例を示している。

1 基礎・基本の定着

視点① 題材の目標の示し方

- 各題材で、新学習指導要領に示された育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づいた学習のめあてを示している。学習のめあての中に造形的な視点を具体的に示している。
- 全ての題材に「学びに向かう力、人間性等」につながるまとめの例を示している。
- 巻頭では、各題材における3つの学習のめあてについて、それぞれ「見つけたり、くふうしたりすること」「感じたり、考えたりすること」「活動の中で楽しんですること」と説明している。

視点② 材料・用具の取扱いと表現方法の紹介

- 各題材で、材料や用具の扱い方や表現方法の工夫について図や写真を使って示している。また、クレヨンやキャラクターのセリフなどで表現方法を紹介している。
- 用具の取扱いに関して、特に注意が必要な場合は「気を付けよう」において、安全な扱い方を示している。
- 各題材の左ページ下部に、主に用いる用具をマークで示している。必要に応じて詳しい使い方が参照できるよう、参照ページを示している。
- ほとんどの題材において、材料や用具の片付け方を文で示している。その際、今後の活動を見通した片付け方を示している。
- 巻末「使ってみよう材料と用具」において、材料や用具の扱い方について示している。また、「いろいろな表し方」において、掲載している材料や用具を用いた多様な表し方を紹介している。
- 1・2年上の巻末「のりではろう」、3・4年上の巻末「せつちやくざいをつかおう」、5・6年上の巻末「つきたいものに合わせてせつちやくざいを選ぼう」、5・6年下の巻末「絵の具図かん」では、いろいろな種類の接着剤や絵の具を紹介し、自分の表したいことに合わせて使うよう促している。
- 1・2年上の巻末「みのまわりのざいりょうをあつめよう」において様々な種類の材料を紹介し、児童に集めるよう促している。集めた材料は種類ごとに分けておくと、みんなで使うことができることも説明している。
- 3・4年上ではタブレットやカメラ、5・6年下ではコンピュータなど情報機器を紹介している。また、5・6年下では、著作権や情報モラルに関わる配慮事項を示している。
- 巻末には、粘土（1・2年上）、紙（1・2年下）、木（3・4年下）について、複数の種類を紹介している。
- 巻末には、「なにでうつしたかたちかな」（1・2年上）、「どのちょうこく刀でほったのかな」「どんな表し方をしたのかな」（3・4年下）、「何を接写したのかな」（5・6年下）と、児童に表し方を考えさせるような問いかけを示している。

視点③ 伝統と文化に関する内容の扱い

- 日本の伝統的な文化に関わる作品を中学年から掲載している。
- 国内外の芸術家の作品を掲載している。
- 海外の児童の作品を各巻に掲載している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を高めるための工夫

- 巻頭に、児童が活動している写真とともに、表現することの意味や価値等について文章で示している。
- 巻頭の「教科書美術館」において、画家や作家の作品を掲載している。その中に必ず1作品は児童の作品を掲載している。
- 全学年、巻頭の「図画工作をはじめよう」において、造形的な見方・考え方に基づいて、図画工作科で何をどう学ぶのかを示している。
- 全学年、目次と年間の活動を見開き2ページで紹介している。
- 全学年「ひらめきポケット」において、児童が活動を試すためのキーワードや発想のヒントを示している。
- 1・2年上の巻頭には、幼稚園や保育園で行った活動を写真で掲載している。5・6年下の巻末には「中学生になるあなたへ」を掲載し、図画工作科で学んだことを中学生になっても大人になっても生かしていくよう、メッセージを記している。
- 1・2年上以外に「図画工作のつながり ひろがり」を掲載し、家族や友達、地域、社会、生活、材料、平和、未来、命とつながる活動や作品を掲載している。また、他教科や学校行事と関連した内容も示している。
- 裏表紙に、各学年において表現の工夫を考えることができるコーナーを設けている。
- 巻頭の「保護者の方へ」には、図画工作科を通して児童に付けたい力を、低学年、中学年、高学年と系統立てた内容で示している。

視点⑤ 活動の流れやポイントの示し方

- 題材名の上部に学習内容を示し、題材名の下部に、児童が働かせる思考や、行う活動について短い文で示している。また、学習を深めるポイントをキャラクターの吹き出しにより記載している。
- ほとんどの題材で「きをつけよう」や「かたづけ」においてポイントを示している。
- いろいろな表現につながるように、活動例が写真と言葉で複数紹介してある。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 題材の配列や分量

○ 各巻のページ数、重量及び題材数は以下のとおりである。

〈1・2年上〉	67ページ	約260g	造形遊び：5	絵：7	立体：4	工作：6	鑑賞：2
〈1・2年下〉	65ページ	約250g	造形遊び：4	絵：8	立体：4	工作：5	鑑賞：2
〈3・4年上〉	65ページ	約250g	造形遊び：4	絵：8	立体：5	工作：5	鑑賞：1
〈3・4年下〉	65ページ	約250g	造形遊び：5	絵：7	立体：4	工作：5	鑑賞：2
〈5・6年上〉	65ページ	約250g	造形遊び：2	絵：8	立体：5	工作：4	鑑賞：2
〈5・6年下〉	65ページ	約250g	造形遊び：3	絵：6	立体：4	工作：5	鑑賞：2

※ 重さは一の位を四捨五入している。

※ 巻頭、巻中、巻末に設定されている「教科書美術館」「ひらめきポケット」「図画工作のつながりひろがり」「使ってみよう材料と用具」はページ数に含んでいる。

○ 全題材、見開き2ページで掲載している。

4 内容の表現・表記

視点⑦ 活動や作品の解説の仕方

○ 桃色の枠の中に児童の製作の意図や工夫を示している。

○ 児童が活動している様子の写真に吹き出しを付し、対象や事象を造形的な視点で捉え児童が資質・能力を発揮している様子を示している。

○ 多様な表し方や展示方法例を写真で示している。

○ ほとんどの題材において、安全に活動するための注意事項と片付けの仕方を、短い言葉で示している。

○ 児童の様々な活動の様子や、活動しているときの表情を写真で掲載している。

視点⑧ 配色や文字の大きさなどの工夫

○ カラーユニバーサルデザインに配慮している。

○ 冊子の大きさは、A4サイズである。

○ 学習のめあてを、全題材において板書風に提示している。

○ 吹き出しに淡い色を付けている。

5 言語活動の充実

視点⑨ 表現や鑑賞における言語活動の工夫

○ 鑑賞の題材では、キャラクターや児童の吹き出し等によって、鑑賞の視点を示している。児童が活動している様子の写真や吹き出し等には、形や色などの特徴を踏まえて言語活動を行っている様子を示している。

○ 児童が友人と話し合いながら活動する写真を掲載している。

○ アイデアスケッチや鑑賞作品への書き込み、ワークシートの活用、プレゼンテーションなど、言語活動の例を示している。

○ 巻頭の「教科書美術館」では、各学年に示された指導事項（第1・2学年「形や色など」、第3・4学年「形や色などの感じ」、第5・6学年「形や色などの造形的な特徴」）に応じて、児童の気付きを促す図版を掲載している。また、題材と関連させて取り扱うことができるよう示している。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市児童の課題である「表したいことを見付けることや発想することが苦手な児童、粘り強く取り組めない児童、造形活動に苦手意識をもっている児童がいる。その理由として、多様な造形活動の不足が考えられる。」ことに対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和2年度使用小学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 日本文教出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 各巻の巻末では、材料や用具の扱い方や多様な表し方を示すとともに、様々な種類の接着剤や絵の具を紹介し、自分の表したいことに合わせて使うよう促している。これは、児童が多様な表現を試み、自分の表したいことを表現することに効果的である。
- ・ 全学年「ひらめきポケット」において、児童が活動を試すためのキーワードや発想のヒントを示している。
- ・ 鑑賞の題材では、児童が活動している様子の写真等に、形や色などの特徴を踏まえて言語活動を行っている様子を示している。また、各学年の「教科書美術館」では、各学年に示された指導事項（第1・2学年「形や色など」、第3・4学年「形や色などの感じ」、第5・6学年「形や色などの造形的な特徴」）に応じて、児童の気付きを促す図版を掲載し、題材と関連させて取り扱うことができるよう工夫しており、児童が表したいことを見付けたり、表現を工夫したりすることに効果的である。

意見2 開隆堂出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 各巻の巻末では、材料や用具の扱い方や多様な表し方を示すとともに、材料や用具を用いて制作した作品や、そのつくり方等を紹介している。これは、児童が多様な表現を試み、自分の表したいことを表現することに効果的である。
- ・ 全学年「ひらめきコーナー」において、紙や紙でできた身近なものでつくることができる工作の仕組みを紹介している。
- ・ 鑑賞の題材では、児童が活動している様子の写真等に、形や色などの特徴を踏まえて言語活動を行っている様子を示している。